

昨日（6月22日）配信の 逆ラジオ通信 No.24W-220622 にも載せていますが長い間、【長野安曇野】【浜松市浜北 017】と【伊勢D484】【三重志摩】等の長期データと【伊勢E481】の真っ赤な幅のあるデータが出て、さらに 石川県能登地区の長期に渡る群発地震との関連を考えて、中部東海地区、および近畿地区は大地震に注意が必要、としてきたところ、6/19に能登地方M5.2 最大震度 6弱、翌日の 5/20には能登地方 M5.0 最大震度 5強が発生しました。

両方の地震ともM5 クラスで予想よりM値が小さいものでしたが、深度が 10 kmと浅かったことから震度 6弱と震度 5強という強い揺れになって、残念ながら多くの被害が出ており 被害に会われた方がたには謹んでお悔やみを申し上げたいと思います。

また【長野安曇野】以外の異常データとして、【浜松市浜北 017】【伊勢D484】【三重志摩】【伊勢E481】などは 太平洋側の観測点であり、震源が日本海側の能登地方であったことに違和感を覚える方もいるかと思えます。しかし 2007年3月25日の能登半島沖M6.9の大地震のときも、当時、太平洋側の静岡県の清水や榛原の観測点が大きな異常データを出していました。その詳細は6月3日のお知らせに載せていますが、

https://yurekurun.com/information_detail.php?information_id=315

大きな地震ほど、電磁波ノイズが強くなる場所が震源から離れる傾向があり、震源の真上はデータが小さく、いわゆるドーナツ現象のような傾向がみられます。

さらに、逆ラジオの電磁波データの大きさと地震の規模の関係は、通常はM（マグネチュード）値と比例すると考えていますが、今回のように最大震度は大きいM値はM5クラスにとどまった場合、①これが逆ラジオの電磁波データにそのまま対応していたのか？

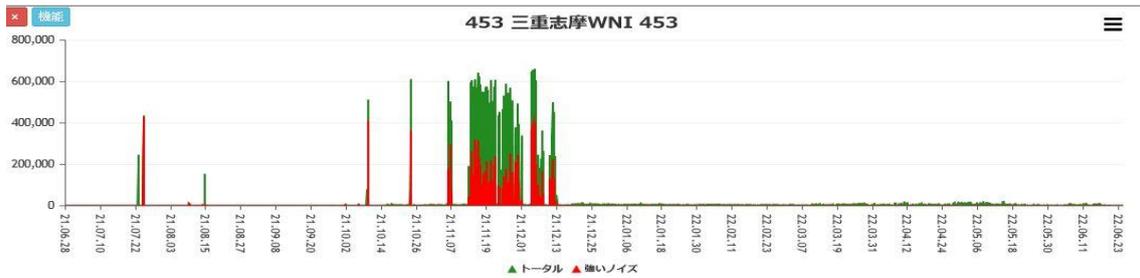
②あるいはあくまでM値に対応するので この先、M6クラス以上の、さらに大きな地震が控えているのか？ は過去の事例が少ないため、はっきりとはしていません。

またデータの総量に比べ発生した地震が予想外に小さいケースもときどきあります。

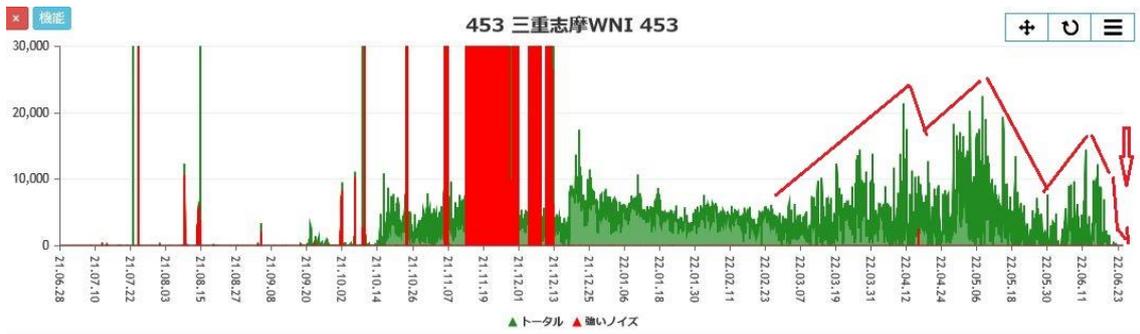
そこで いままでの複数の異常データは、一応、今回のM5.2とM5.0が対応する地震と考えておいて、念のため、しばらくの間、M6超の大地震への警戒を怠らないようにすべきと考えます。

こう考えたとき、【三重志摩】のデータは6/19,20の後もさらに収束してきています。また【伊勢D484】も再度上昇には転じていません。これが何を意味するのか？やはり念のために これからしばらくの間、太平洋側のM6クラスの大地震の可能性も考えたいと思います。以下に関連データを載せます。参考まで。

三重志摩 360 日間データ



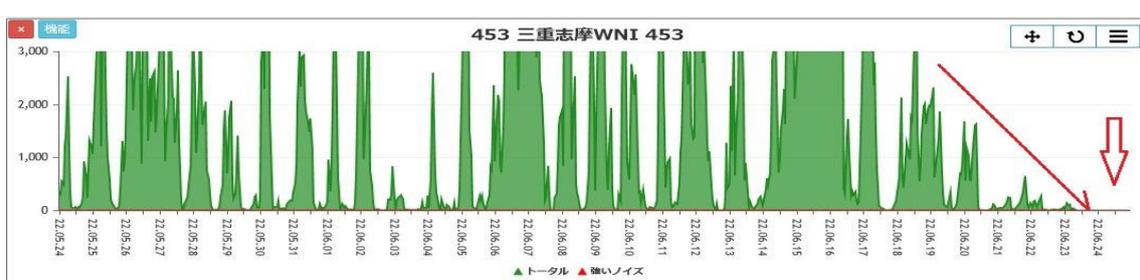
三重志摩 360 日間データ (拡大)



三重志摩 90 日間データ



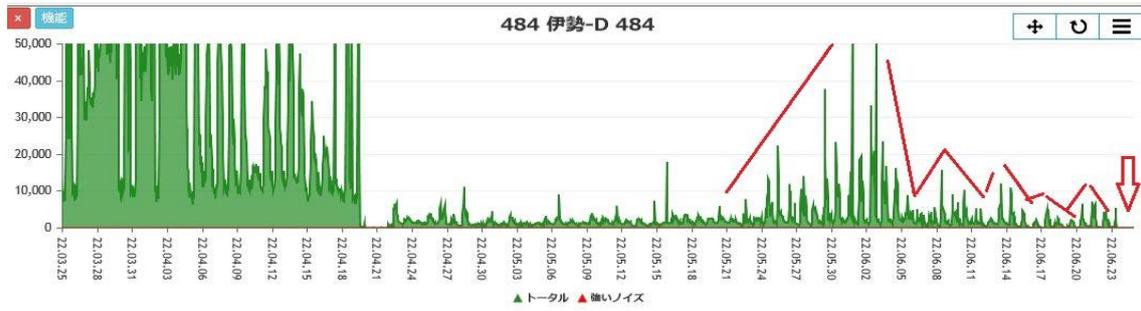
三重志摩 30 日間データ (拡大)



伊勢D484 360 日データ



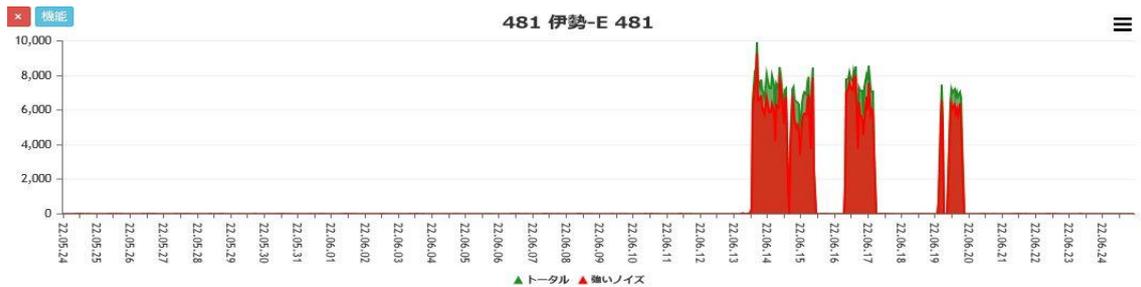
伊勢D484 90日データ (拡大)



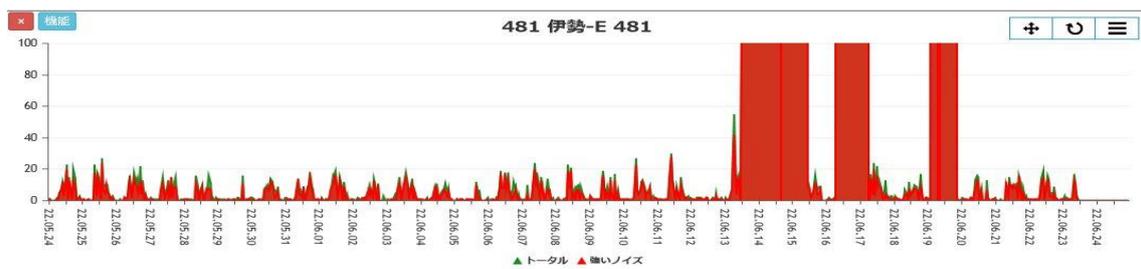
伊勢D484 30日データ (拡大)



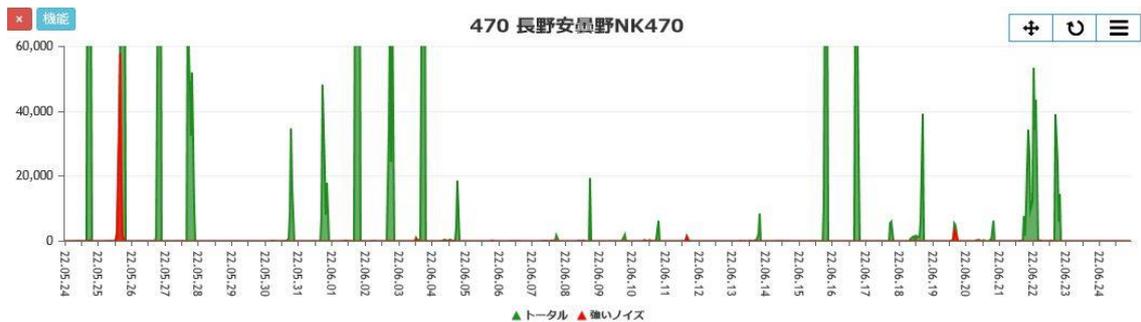
その他 伊勢E481 30日データ



伊勢E481 30日データ (拡大)



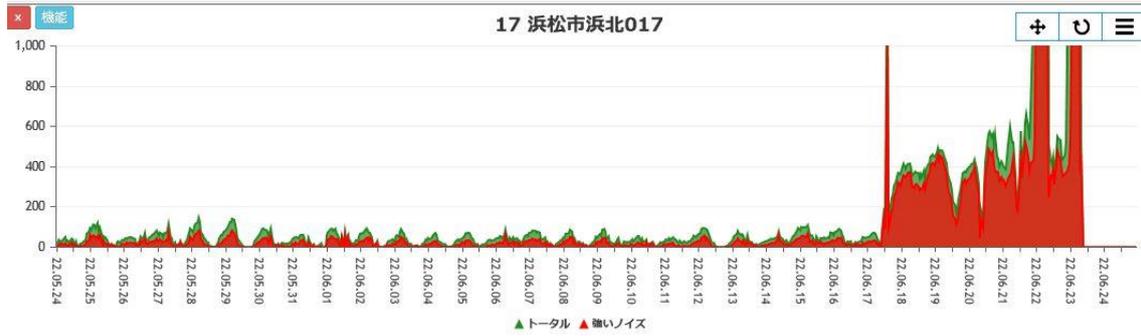
その他の関連しそうなデータ 安曇野 30日間データ



浜北 30日間データ



浜北 017 30日間データ (拡大)



印南 30日間データ



印南 30日間データ (拡大)

